「第一回　突風等短時間予測情報利活用検討会」の議事概要について

平成 19 年 7 月 17 日　気象庁

１．検討会の概要

日　時：平成 19 年 7 月 12 日（木）10：00～12：00

場　所：気象庁大会議室（5 階）

出席者：

田中座長、木村、高橋、竹井、田村、新野、柳下、柳橋、山崎の各委員
（佐藤委員　欠席）

内閣府　鳥巣参事官、総務省消防庁　金谷防災課長（代理　杉原理事官）、
国土交通省　田村技術安全課長、国土交通省　上総防災課長
平木気象庁長官、櫻井予報部長、佐藤観測部長、
露木業務課長、佐々木計画課長

２．議事の概要

(1)議事項目

1)突風等短時間予測情報(仮称)の発表に向けた取り組み

2)平成 19 年度末 発表予定「突風に関する府県気象情報(案)」

3)業務化に向けた課題と取り組み

(2)議事項目に沿って、事務局から資料の説明がなされた後、討議が行われ、各委員から以下のような意見が出された。

○今まで、竜巻等の警戒を呼びかける情報はなかった。しかし、まだ完全ではないものの、科学的に裏付けられた技術に基づいて新しい情報が発表されようとしている。非常に難しい技術なので、最初から完璧を求めず、まずはできることから開始し、ひとりでもふたりでも人命が救えるよう、技術評価を行いながら本情報を育ててゆくことが重要である。

○竜巻の発生は、発達した積乱雲（スーパーセル）によるものと、局地的な前線によるものの２種類がある。本情報は、発達した積乱雲（スーパーセル）の存在を根拠として発表するものであることから、後者によるものはカバーできない可能性がある。できることと、できないことを利用者に説明することも必要である。

○住民は、発達した積乱雲（スーパーセル）により、どのような現象が発生し、どのような被害が想定されるか、基本的な知識を持ち合わせていない場合が多い。これらの知識を持たないと情報が有効に利用されないので、周知・啓発の必要がある。

○情報を発表する側と情報を利用する側には、情報の内容に関して基礎的な理解力（or 理解度）に大きな差がある。従って、発表する情報は、平易な言葉を用いて、分かりやすくする必要がある。情報の名称や用いる文言については、あまり学問的な厳密さを追求するのではなく、警戒すべき行動のイメージが伝わるよう検討する必要がある。

○竜巻等突風と雷と短時間強雨では、それぞれ防災対応が異なるはず。この点を踏まえて、情報の標題や内容、期待される利用方法等を整理してもらいたい。ただし、大雨時に竜巻等突風に備える等、同時に対応しなければならないケースもあるので、そうした点にも注意をしつつ、整理してもらいたい。

○平成 18 年の竜巻事例等では、計画している情報がどのようなタイミングで発表されるのか、既存の注意報・警報等を含めたシミュレーションを行って、想定される利用者の避難行動などとイメージを合わせながら、どのような周知方法が適切かつ効果的かを検討することが重要である。その際、情報の使い方はひとつとは限らない。利用者ごとに様々な利用方法があるはずなので、その点を考慮することが必要である。

(3)次回は、11 月開催を予定。